

平成26年度 電気学会 高校生懸賞論文コンテスト講評

電気学会 電力・エネルギー部門

編修委員会委員長

三谷 康範

高校生懸賞論文コンテストは、今年で8回目を迎えました。これは、高校生に電気エネルギー技術を身近なものと感じ、我が国の基盤を支える重要な技術であること、未来を拓く有望な技術であることを理解いただき、電気工学を学ぶ契機となることを期待して始めました。

今回は、全国の高等学校、工業高等専門学校11校から、133編の論文を応募いただきました。そして、厳正な審査の結果、最優秀論文1編、優秀論文2編、佳作3編を選考するとともに指導者賞として優秀な応募論文をご指導いただいた先生1名を選出しました。

応募いただいた論文は、論旨の展開、独創性、発展性、客観性など幅広い観点から一次審査ならびに二次審査にて評価しました。応募論文の多くは、文献やホームページなどを調査して論文としてまとめたもの、学校あるいは自宅で自ら実験・観察して結果を考察したものです。内容は新エネルギーを筆頭に発電方法、省エネルギーそして環境問題に関する論文が多くを占めています。超電導や太陽光発電に関する高度な実験・考察を行なった論文がある一方で、地元や身の回りの課題に焦点を充て、その解決策を検討したユニークな論文が多々ありました。審査委員は、これら多彩な発想に満ちた応募論文を、興味深く、また楽しく拝読しました。

評価の高い論文は、高校生らしい視点や考え方で課題を捉え、試行を経て積極的に自分の意見を述べています。一方、文献やホームページの情報を取りまとめただけで、考察や主張がない論文の評価は高くありませんでした。今回、論文を審査する中で、現代の高校生が電気エネルギーの技術や課題に対しどのように考えているのか読み取ることができ、現代社会の誰もが関わる電気エネルギーについて、我々電気学会の会員が分かりやすく伝えていくことの重要性を再認識した論文審査でもありました。

論文を応募された高校生の中から将来電気学会で活躍するような研究者、技術者が現れることを願っています。そして3月の表彰式で受賞した皆さんにお会いできることを楽しみにしています。

来年度は、論文募集の周知方法、論文テーマなどの改善を図り、より一層盛り上がりのある高校生懸賞論文コンテストにしていきたいと思えます。来年度も6月頃にご案内する予定ですので、引き続き多くの高校生に応募いただくよう関係者のご協力をお願いいたします。

本コンテストの企画・推進にあたり、共催のパワーアカデミーならびに多くの論文審査委員の皆さまにご支援、ご協力をいただきました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。